

体 育 科 学 習 指 導 案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇)
 第5校時 13:40～14:25
 学校名 小学校
 対 象 第5学年1組 35名
 会 場 体育館
 授業者 〇〇 〇〇

1 単元名 ボール運動 ネット型「キャッチバレーボール」

2 単元の目標

知識及び技能	ネット型の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付け、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。
思考力, 判断力, 表現力等	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力, 人間性等	運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①ネット型の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②軽くて柔らかいボールを片手、両手で操作することができる。 ③チームの作戦に基づいた位置取りをするなどボールを持たないときの動きができる。	①誰もが楽しくゲームに参加できるように、プレイヤーの人数、コート広さ、プレイの制限、得点の仕方などのルールを選んでいる。 ②自己やチームの特徴を確認して作戦を選んでいる。 ③味方が受けやすいようにボールをつなぐことについて考えたことを他者に伝えている。	①ゲームや練習に積極的に取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、仲間と助け合って運動をしようとしている。 ③ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ④ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めようとしている。 ⑤場や用具の安全を確かめている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年3月告示）体育、第5学年及び第6学年、Eボール運動

(1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付けること。 イ ネット型では、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすること。 (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 (3) 運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
--

を受けて設定した。

本単元では、ネット型「キャッチバレーボール」を行う。キャッチをしてからボールをつなげるゲームであることから、「ボールを持たないときの動き」の課題発見・課題解決に着目しやすい。どこに位置取りをすれば、得点につながるのかということ（ボールを持たないときの動き）を重点に指導に当たる。また、児童に味わわせたいネット型の特性については、以下のように捉える。

ア 一般的特性

- ・相手コートにボールを落としたり自陣コートにボールを落とさせないようにしたりしながら、得点を競い合う攻防をすることが楽しい運動である。
- ・相手との接触がないため、安心して攻撃や守備におけるチームの連携がしやすいゲームである。
- ・自コートのみでプレイするため、プレイ範囲が分かりやすいゲームである。
- ・勝利に向け、個人だけでなく、チームで話し合う（作戦）ことの大切さを味わうことができる運動（ボール運動）である。

イ 児童から見た特性

- ・勝敗を競うことが楽しい運動（ボール運動）である。
- ・キャッチをしてからボールをつなぐため、落ち着いてプレイをすることができる運動である。
- ・柔らかいボールを使用するため、安心してプレイすることができる運動である。
- ・チームで協力して、応援し合ったり、励まし合ったりすることで、仲間意識を高めることができる運動である。

(2) 児童観

ア 教師から見た実態

本校は7階に体育館があり、毎時間3階の教室から階段で移動している。そのため、教室から出発するところから体育の学習が始まり、階段上りをウォームアップとしている。児童は徐々に階段上りに慣れてきており、年間を通じて、体力向上にもつながると考えられる。

本学級の児童は、運動することが好きな児童が多く、休み時間は仲良く鬼ごっこをして遊んでいる。昨年度は、ネット型「プレルボール」を行っており、仲間とボールをつなげること、3回目攻撃など、ネット型のルールや特性を味わっている。

4月「体づくり運動」(体ほぐしの運動、体の動きを高める運動：体の柔らかさを高めるための運動、巧みな動きを高めるための運動)
フープやボール、長なわを使いながら、フープをくぐったり、ボールをいろいろな姿勢で捕ったりするなど、体を動かす心地よさ、仲間と仲良く運動を楽しむ姿が見られた。

4月「短距離走・リレー」

本学級の児童は走ることが好きな児童が多く、進んで学習に取り組んでいる。いろいろな姿勢からスタートしたり、コーナーを走ったりする際、どのようなことを大切にするか、また、リレーにおける滑らかなバトンパスなどを今後の学習で取り上げていく。

本単元では、自分の課題を見付けること、課題を解決していくことを通して、運動の楽しさを味わうことを指導していく。

イ 質問紙による実態調査

〈実態調査結果〉 調査方法：質問紙調査 調査対象：第5学年1組35名 実施時期：令和〇年〇月〇日

設問①②

(単位：人)

		①体育の学習は好きですか。			
		好き	やや好き	あまり好きではない	好きではない
②ボール運動の学習は好きですか。	好き	18	0	0	0
	やや好き	9	1	0	0
	あまり好きではない	1	0	0	2
	好きではない	3	0	0	1

設問③ ボール運動が【あまり好きではない】もしくは【好きではない】の理由は何ですか。(該当者7人)

- ・ボールに触りたいのに、得意な人だけが触っていて楽しくないから。(3人)
- ・ボールを投げるのが苦手だから。(3人)
- ・ボールが当たって、痛いから。(2人)
- ・顔面に当たって眼鏡が壊れたことがあり、怪我をするから。(1人)
- ・男子が盛り上がってうるさくて頭が痛くなるから。(1人)

設問④ ボール運動で楽しいと思うのはどのようなときですか。(単位：%) 複数回答可 □…今回の重点

	体育：肯 ボール：肯	体育：肯 ボール：否	体育：否 ボール：肯	体育：否 ボール：否
	28人	4人	0人	3人
① ボールを操作しているとき	42 (12人)	0	0	33 (1人)
② ボール操作のポイントやコツが分かったとき	42 (12人)	25 (1人)	0	0
③ チームでボールを使って練習しているとき	39 (11人)	0	0	0
④ 自分がやりたい練習をしているとき	28 (8人)	50 (2人)	0	0
⑤ ゲームで勝ったとき	53 (15人)	0	0	33 (1人)
⑥ 作戦が成功したとき	39 (11人)	0	0	33 (1人)
⑦ チームに貢献できたとき	32 (9人)	0	0	33 (1人)
⑧ 先生や仲間から教えてもらったとき	10 (3人)	0	0	33 (1人)
⑨ 仲間とはげまし合って運動したとき	28 (8人)	0	0	0
⑩ その他	試合の内容がよかったとき(1人)	ボールに触れたとき(1人)	0	ボールに触れたとき(1人)

設問⑤ 自分の課題を見付ける際に大切だと思うことは何ですか。(単位：%) 複数回答可 □…今回の重点

① 運動してみる(まずやってみる)	71.4 (25人)	② ルールを理解すること	42.9 (15人)
③ 正しいボール操作や動き方を知ること	34.3 (12人)	④ 先生や友達からボール操作や動き方を教えてもらう	34.3 (12人)
⑤ 仲間のまねをしてみる	31.4 (11人)	⑥ 授業中に自分の動きを撮影した動画を見る	22.9 (8人)

設問⑥ 課題を解決する際に大切だと思うことは何ですか。(単位：%) 複数回答可 □…今回の重点

① 自分の課題をもつこと	45.7 (16人)	② 自分の課題に合った練習をすること	60.0 (21人)
③ チームや仲間と練習すること	45.7 (16人)	④ チームや仲間とポイントやコツを伝え合うこと	37.1 (13人)
⑤ 先生や仲間から教えてもらう	34.3 (12人)	⑥ 授業中に自分の動きを撮影した動画を見る	22.9 (8人)
⑦ 仲間のまねをしてみる	34.3 (12人)	⑧ 映像や掲示物、資料をみる	17.1 (6人)
⑨ 自分の成長を見付ける	25.7 (9人)	⑩ その他	学校だけではなく、家や他の場所でも練習する(1人)

ウ 考察

【設問①②】

設問①②から、体育の学習とボール運動の学習ともに肯定的に捉えている児童が28人(約80%)であった。反対に、ともに否定的に捉えている児童は3人(約8%)いることが分かった。自由記述では、設問③のような意見があり、ボール運動における技能面・安全面に関する内容があった。

【設問④】

設問④では、クロス集計から「否定的に捉えている児童の回答項目に注目」した。特徴的なのは、ボールに触れることや操作すること、自分がやりたい練習をすることが楽しいと思っていることである。やはり、技能面における苦手意識をもつとともに、技能を向上させたいという思いが読み取れる。このような児童に対しては、積極的に個別指導をしていく。

【設問⑤⑥】

設問⑤から、課題を見付ける際には、運動してみることをはじめ、ルールを理解し、正しいボール操作や動き方を知ることが大切だと思う児童が多いことが分かった。設問⑥から、課題を解決する際には、自分の課題に合った練習をすることが大切だと思う児童が多かった。このことから、班テーマの一人一人に合った方法で行うことを大事にし、単元前半は、全体で課題や練習方法を考え、自分の課題に合った練習を行い、個人で練習方法を選択できるようにする。単元中盤からは、チーム練習をチームの実態に合わせて行っていくように展開する。

(3) 教材観

「キャッチバレーボール」は、ボールを一度キャッチしてつなぐことができるソフトバレーボールを基に簡易化されたゲームである。相手コートとネットで区切られ、自コートのみでプレイするため、相手との接触もなく、安心してゲームをすることができる。さらに、ボール（ソフトバレーボール）は、柔らかく、当たっても痛くないため、恐怖感も少なく、落ち着いてプレイすることができる。

また、相手コートにボールを落としたり自陣コートにボールを落とさせないようにしたりしながら、得点を競い合う攻防をすることが楽しい運動であることから、「落とさせない（守備）－つなぐ（守備から攻撃へ）－落とす（攻撃）」といった3回目攻撃を基本としたゲームを楽しんでいく。

「ボールを落とさせないためには、どのような位置取りをすべきか」、「攻撃をしやすくするためには、どこに移動してボールをもらうべきか」、「相手コートに落とすためには、どこをねらうべきか」、この三つの視点が学習の中心となる。ルールを理解した後、このようなゲーム理解を全体で共有しながら、効果的な動きを気付かせていきたい。

5 年間指導計画における位置付け（年度当初 ※コロナ禍にて変更する場合がある）総時数 90 時間
第5学年（○数字：時数）

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体づくり運動④	鉄棒運動⑤	ハードル走④	走り幅跳び⑤	体の動きを高める運動④						
短距離走・リレー⑥	保健⑤	マット運動⑤	体の動きを高める運動⑧	跳び箱運動⑥						
ネット型⑥	水泳⑧	水泳②	表現運動⑤	保健⑤						
			ベースボール型⑥	ゴール型⑥						

第6学年（○数字：時数）

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体づくり運動④	マット運動⑤	走り高跳び⑥	体の動きを高める運動④	体の動きを高める運動④						
短距離走・リレー⑥	水泳⑧	水泳②	鉄棒運動④	跳び箱運動⑤						
ネット型⑥	表現運動③	ハードル走⑥	保健⑤	保健⑤						
		表現運動⑤	ベースボール型⑥	ゴール型⑥						

6 単元の指導計画と評価計画（6時間扱い）

	第1時	第2時	第3時 本時	第4時	第5時	第6時
段階	今もっている力で、運動の楽しさや喜びを味わう。	個人の学習課題、チームの特徴や課題について考える。		個人やチームで課題解決を行う。		
教師のねらい	ゲームの楽しさに気付き、ルールを理解できるようにする。	ゲーム全体での振り返りを通して、ゲーム理解、効果的な動き方に気付くとともに自己の学習課題を意識できるようにする。		チームで作戦を振り返るとともに、自己の学習課題を意識できるようにする。		
学習の流れ（学習内容・学習活動）	1 集合・挨拶 2 ボール慣れ（準備運動） 3 ルールの確認 4 試しのゲーム① 5 振り返り①（全体） 6 試しのゲーム② 7 片付け 8 整理運動 9 振り返り②（全体） 10 学習のまとめ（全体）	1 集合・挨拶 2、ボール慣れ（準備運動）／課題別練習（or チーム練習） 3 ゲーム① 4 振り返り①（チーム） 5 チーム内練習 6 ゲーム② 7 片付け 8 整理運動 9 振り返り②（チーム） 10 学習のまとめ（全体）		3 ゲーム① 4 振り返り①（チーム） 5 ゲーム② 6 振り返り②（チーム） 7 ゲーム③ 8 片付け 9 整理運動 10 振り返り③（チーム） 11 学習のまとめ（全体）		
	ア	① （観察）	② （観察、学習記録）		② （観察、学習記録）	③ （観察、学習記録）
評価規準（評価方法）	イ	① （観察、学習記録）	③ （観察、学習記録）	② （観察、学習記録）		
	ウ	⑤ （観察）	①② （観察）		③④ （観察）	

7 指導に当たって

令2道場 体育・保健体育 小学校1班

第2期 班テーマ 一人一人に合った方法で、課題を解決していく体育学習

班テーマと実態調査から、以下の5点を重点に指導していく。

- ボール操作（ボール慣れ）の時間は、ボールを一人一つ用意し、ボールキャッチ等の感覚を養う。
- ボール操作（技能）のポイントは教える。
- 動き方はゲーム理解の際に、全体で取り上げて共有する。
- 自分の課題の見付け方を学習する。（選択できるようにする。）
- 自分の課題に合った練習をすること。（課題の解決）

「ボール操作」（技能を身に付ける）

ボールに触れる経験を増やすことで、ボール操作の感覚を養うことができ、技能の向上につながる。そのため、ボール慣れの際は、バウンドキャッチやボール上げ（トスにつながる）、落下点に入ってキャッチ、アタックなど、十分に運動できるようにする。その際に、技能のポイントを教え、正しいボール操作を意識することができるようにし、できた喜びを味わい、ボール操作に自信をもてるようにする。

「動き方」（ボールを持たないときの動き）

キャッチバレーボールは、キャッチをしてからは動くことができないルールである。キャッチをしてから動いている場面を取り上げ、注意するのではなく、「動きたい場所があるんだね。」「どうしてそこに動きたいのかな。」などの発問をし、ゲーム理解を促していく。そうすることで、パスを出す相手が分かり、展開も早くなっていく。

「自分の課題を見付ける」・「一人一人に合った方法」

児童が自らの課題を見付けられるように、ゲーム理解を全体で共有しながら効果的な動きなどを気付かせていく。

全体で共有する内容例

- ・レシーブキャッチができるようになるための姿勢やポイント。
- ・レシーブしたボールを味方が受けやすいようにパスをつなぐこと。
- ・味方がアタックしやすいように、安定したトスを上げること。
- ・相手コートに落とすために、空いている所をねらって打つこと。

これらの中から、児童一人一人のできるようになりたいことに応じて、練習の場を設定する。練習は、個人でもチームでも選択できるようにする。単元前半では、個のできるようにしたいことを練習し、単元が進むにつれてチーム練習に変わっていき、練習してきたことを生かして連携を図っていくことを想定している。それぞれの練習の場において、「どのようなことを目指して練習しているのか。」を問いかけながら児童の様子を見取り、児童に応じて、積極的に教えることも想定している。

「課題を解決していく体育学習」

児童は自分の課題に合った練習を行った後、ゲームの中で、上達が見られたかを振り返るようにする。その際、レシーブキャッチ、パス、トス、アタック、動きの5項目に応じて振り返り、自己評価していく。

各項目、「5：とても自信がある、4：自信がある、3：少しだけ自信がある、2：普通、1：自信がない」の5段階で自己評価をしていく。（全体での指標を設けるのではなく、あくまでも自己評価として、自己の課題の振り返りや、新たな課題発見へとつなげていく。）

さらに、その日の課題や、新たに気になった点について理由を含め、記録するように指導する。

教師は、児童の様子や記録を基に、児童が課題を解決していく体育学習になっているかを見取り、必要に応じて個別指導を行っていく。

「教師の言葉掛け」

「教えること」と、「考えさせること」の明確化を図り、ゲーム理解（全体）や児童一人一人に合った自己の学習課題を設定し、課題を解決していくことができる言葉掛けを行っていく。

児童の想定される姿	教えること	教師の言葉掛け
ルールを理解できておらず、どのように動いたらよいか分かっていない。	ルール面に関すること	「動きたい場所があるんだね。ということは、ボールをもらう前に…？そう！動けばいいんだね。」 「どうして、そこに動いたの？」「ナイス！」
ボールを持って動いてしまう。		
キャッチがうまくできない。	<ul style="list-style-type: none"> ・落下点に素早く入ること ・両手でしっかりとはさむこと 	「ボールを横からキャッチするよりも正面でキャッチした方がキャッチしやすいよ！そのためには、落下点に素早く入ることがポイントだね！」 「両手でしっかりボールをはさもう！」
コート内に固まってしまう、ボールを落とされてしまう。	ボールを落とさせないようにするためには、コート内の空いている所を減らすこと	「チーム一人一人がどこに立てば、空いている所が減らすことができるかな？」 「どのようなフォーメーションがいいだろう」

児童の想定される姿	考えさせること	教師の言葉掛け
パスをつなぐ際、プレイが止まってしまう。	二人目の動きがポイントであること	「二人目はどこでボールがほしいの？」 「おお！どうしてネット際に動いたの？よい気づきだね！」
アタックを打つ場所が遠くなってしまう。		「どこでアタックしたい？そうだね！できるだけ相手コートに近い、ネット際でアタックしたいね。じゃあ、どこでトスをしたらいいの？」
アタックしても捕られてしまう。	ねらう場所	「相手の守備は強いなあ！どうにか決めたいね！どこをねらえば決まりやすいだろう？」 「そう！スペースをねらえばいいんだね！やってみよう！」
チームの作戦が決まらない&チームに合っていない	チームの特徴	「このチームに質問！何回かゲームをしてきて、このメンバーのここがいいなあと思うところってどんなところ？そうだね、じゃあそのよいところを作戦にするとどんな作戦が生まれそう？」

<はじめのルール>

コート	バドミントンコート	ネットの高さ	180cm	ゲーム人数	4人
サーブ	相手チームが投げ入れる。(サーブでの得点はなしで、やり直し。相手にパスをするイメージ。)				
得点	相手コートにボールが落ちたら1点。				
※相手コートへの返球は「弾く」、それ以外は「キャッチ」してよい。					
触球回数	個人：1度の攻撃でボールに触っていいのは、1人1回まで。 チーム：返球は3回以内（3回目攻撃を意識したゲーム）				
移動	ボールを持って移動できない。				
ローテーション	どちらかに得点が入ったら、両チーム、ローテーションをする。				
ボール	ゴム製のボール。				

8 本時（全6時間中の第3時）

(1) 本時の目標

【知識及び技能】

- ・ボールを片手、両手で操作することができるようにする。

【思考力, 判断力, 表現力等】

- ・味方が受けやすいようにボールをつなぐことについて考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 11分	1 集合・挨拶【1分】	・服装、ゼッケンの確認をする。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分の学習課題をもって楽しく運動しよう。 </div>		
展開 24分	2 準備運動・ボール慣れ【5分】 課題別練習【5分（移動を含む）】	・基本的なボール操作を中心に行い、苦手な児童には個別指導する。 ・自分に合った練習の場を選んで練習するよう言葉掛けをする	
	3 ゲーム①【8分】	・味方が受けやすいようにボールをつないでいたり、仲間からボールを受け取ることができる場所に動いたりしている児童を称賛する。 ・コート外のメンバーには、個人の学習課題やチームの特徴など、思考を促す言葉掛けを行うようにする。	アー② ボールを片手、両手で操作することができる。 (観察・学習記録) A ボールを 正確 に操作し、 素早く つなげることができる。 B ボールを操作し、つなげることができる。
	4 振り返り①（チーム）【3分（移動を含む）】	・ゲーム理解について、全体で共有すべき点がある際は共有する。	
	5 チーム内練習【5分（移動を含む）】	・各チームの特徴や課題を見付けながら、周るようにする。	イー③ 味方が受けやすいようにボールをつなぐことについて考えたことを他者に伝えている。 (観察・学習記録)
まとめ 10分	6 ゲーム②【8分】	・「〇〇さんは、□□が得意だね。」のように、意図的な言葉掛け（称賛）を行うとともに、チームメンバーの特徴を問う言葉掛けをしていく。	A ボールをつなぐことについて仲間に 積極的に 伝えている。 B ボールをつなぐことについて仲間に伝えている。
	7 片付け【2分】		
	8 整理運動【1分】	・痛めている個所はないか言葉掛けをしながらクールダウンさせる。	
	9 振り返り②（チーム）【4分】	・本時の学習でできるようになったことを振り返り、次回できるようにしたいことをチームで考えられるように言葉掛けをする。	
	10 学習のまとめ（全体）【2分】		

(3) 授業観察の視点

- 自分の課題に合った練習の場は、児童一人一人の課題解決につながっていたか。
- 教師の言葉掛けは、児童一人一人の課題解決につながっていたか。

【参考・引用文献】

- ・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編（平成29年3月 文部科学省）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校体育】
（令和2年6月27日 文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター）
- ・令和元年度東京都小学校体育研究会ボール運動領域部会「ボール運動領域部会実証授業 資料」
- ・学校体育実技指導資料 第8集 ゲーム及びボール運動（平成22年3月 文部科学省）